

わくわく 田原っ子 Part II



令和5年度 学校地域教育目標

やさしく、かしこく、たくましい「山坂達者な田原っ子」の育成

～心豊かでたくましく、自ら考え主体的に行動する子どもを育てる～

学校スローガン ◎自他を大切にしよう ◎自分なりに考え進んでやってみよう ◎最後までがんばろう

第1回学校保健委員会～メディアとの付き合い方～について考えました！

7月18日(火)に公認心理士であり、NHK「いじめをノックアウトスペシャル」の出演や地元テレビ局、ラジオのコメンテーター、また、熊本日新聞「スマホの向こう側」の連載、多数の教育講演会やシンポジウムなどを務めておられる、帯山中学校の教頭 田中慎一郎先生を講師にお迎えし、「令和5年度 第1回学校保健委員会」を音楽室で開きました。4, 5, 6年生児童と学校評議員の方々、教職員でお話を聞きました。田原小では「すこやかカード」を保護者様のご協力のもと、定期的に実施しています。子どもたちの実態から、メディア関連の利用の仕方の影響で就寝時刻が遅くなったり、そのために、翌日の起床が遅くなったり、体調がよくなかったり、朝食を摂れずに登校し体が起きておらず、ボーっとしていたり・・・と不調を訴える姿も時々見受けられます。メディアに関する問題は、今の子どもたちにとって考えなければいけない重要なことの一つです。学校保健委員会を通して今の自分の生活を振り返り、課題となることを改善していくために子どもたち一人一人に考えてもらいました。まず、保健委員会が「すこやかカード」の結果から①勉強以外でメディアを使用する時間について②メディアを使いすぎると身体や心にどんなことが起きるのかについて報告がありました。どの学年も5月よりも6月の方がメディア機器を触っている時間が短くなり改善してきていましたが、中には2時間以上と使用時間が増えている人もいました。次に生活委員会から①よく使うメディアについて②ネット利用で何をしているか③ネット上で知り合った人と交流したことがあるか④ネット上でトラブルになった時、誰に相談するか⑤メディア使用について家庭内でルールを決めているか⑥どんなルールか⑦メディアの使い方でのままでいいのかとされていることについてアンケート結果を発表してもらいました。その結果を踏まえ、講師の田中先生のお話を聞き、メディアとの上手な付き合い方を一人一人が考える機会としました。

田中先生からは、調査の結果から「メディア利用により怖い目にあっていない人」は「クラスメートから自分が必要とされていると思っている」。「怖い目にあっている人」は「クラスメートから必要とされていないと思っている」。また、嫌な目にあったことがある人は「親に相談しない」。嫌な目にあったことがない人は「親に相談する」と話され、家族から話しかけられない人は、自分から家族には話さないという傾向が見られる結果も教えていただきました。それは大人を信じきれないから。自分が必要とされていないと思うからだそうです。調査結果からどう思ったのか、場面課題を出され「あなたならどうする？」と子どもたちの考えをどんどん引き出されました。子どもたちは思ったこと、考えたことを出し合い、他の人のいろいろな考えを知ることができました。子どもたちは子どもたちなりに、自分のことを、他の人のことを考えていると思いました。そもそもネットは、友だちも自分も幸せにするものです。今が幸せ、周りの人が幸せ、10年後20年後が幸せであるために、「人を傷つけない、自分を傷つけない」「困ったときは大人に相談する」「人が人の中で生きて互いに幸せを感じる世の中にしていかななくてはならない」というまとめをされました。子どもたちからは「内にこもらず、勇気をもって外に出てみれば助けてくれる大人がいることを知った」「インターネットの悪いところと良いところを知れた」「一人じゃなくて周りに仲間がいることをあらためてわかった」「自分が幸せでも、周りの人のことを気遣っていきたい」・・・と感想をもってくれました。この機会が、これからの生活を見直していくきっかけとなればうれしいです。

